

## 看護学専攻・精神保健学専攻【共通科目】

高齢者ケアサービス論 担当教員名 生野 繁子	少子高齢社会では高齢者ケアサービスはどのように展開されているのかを、介護保険法・老人福祉法等を根拠とするケアサービスと、地方自治体のフォーマルサポートの現状を論じ、少子高齢諸外国の例と比較する。また、高齢者ケアサービスチームにおいて看護職のケアコーディネートのあり方や、ケアの対象である高齢者の視点を活用する看護やケアサービスシステムについて教授する。
医療統計学 担当教員名 原田 幸一	看護・福祉学分野等の疫学調査研究や実務作業を遂行するうえで得られるデータを統計学的手法による処置が必要となる場合がある。また、関連分野の論文などを検索するときに統計学的理解が求められる。本授業では、疫学調査研究や実務作業の遂行そして関連論文の統計学的記述の解釈に必要な統計学的基础知識の習得ならびに理解を可能とすることをねらいとする。
ヘルスケアシステム論 担当教員名 徳永 淳也	国民医療費の高騰と情報化推進などを背景として、医療・保健・福祉サービスは複雑化、高度化が顕著であり、サービスの質保証と効率的提供という2つの視点の重要性が再認識されている。ヘルスケアは、医療関係法制や医療(保険)制度などの社会的枠組み(システム)の中で生産、消費されるサービスであり、システムが個々のサービス提供過程に介入し管理する度合いは益々高まるものと考えられる。本講義では、ヘルスケアシステムの管理的諸側面について、具体的課題提示とその問題理解のための特徴的論点を先行研究の紹介を踏まえて講義する。また、質保証の視点から重要な各種アウトカム指標とそれらに寄与すると考えられる総合的質管理(TQM:Total Quality Management)について紹介し、当該領域における質に関する具体的問題解決能力ならびに実践的研究能力の涵養をはかる。

## 精神保健学専攻【共通科目】

応用倫理学 担当教員名 山本 務	精神保健学は、人間の健康と不健康、正常と非正常、見守りと介入などに関わるが、その境界において発生する倫理的判断に対する鋭敏な感覚が必要である。説明と納得にもとづく基本的な合意形成への不断の努力が求められる。精神保健学で議論されるべき哲学・倫理的問題は今日、応用倫理学(applied ethics)で扱われるべき事柄であるが、本講では、その接点を「作為と不作為」(commission and omission)というキーワードをもとに論を進めたい。どの時点でどのように「介入」すべきなのか、それとも「放置」の形態を取りつつ、しかも、当事者の「気づき」を待ちつつ「見守る」べきなのか、「薬害エイズ」や「ハンセン病問題」の実例をも参照しながら、研究の入口として倫理に関わる問題発見と展開・解決のセンスを形成してゆくように教授する。
応用環境学 担当教員名 (未定)	環境汚染物質及び外因性内分泌攪乱化学物質(環境ホルモン)の生体及び精神保健に対する影響を学び、エイズ、ハンセン病、プリオン病、新型肺炎SARDS、ウイルス性肝炎、MRSA、VRE、在郷軍人病及びHTLV感染症などによる感染とその防御法について学び、病原微生物について理解する。また、サリドマイド薬害、水俣病、スモン、油症、ダイオキシン、有機スズ、イタイイタイ病、ヒ素中毒、農薬中毒等の精神保健学的問題点について教授する。
現代社会病理論 担当教員名 佐藤 林正	現代社会は、激しい社会変動の渦中にあり、社会構造の変化により個人や集団、家族など人間関係に大きな影響を及ぼし、犯罪や非行、自殺、虐待、薬物依存などの種々の社会病理現象を引き起こしている。そこで、これらの発生原因、具体的実相について理論的・実証的に説明し、現代社会病理研究の基礎理論を教授する。
ヘルスプロモーション論 担当教員名 佐藤 林正	健康は、種々の要因によってその保持や増進、阻害などが規定される。近年においては、生活習慣病や精神障害が著しく増加しているが、これらの健康障害のリスクファクターもかなり明らかになりつつあり、包括的予防の視点からヘルスプロモーション・アプローチの重要性が高まっている。そこで、本講義では以下の点を中心に教授する。健康の決定要素を含め主要なヘルスプロモーション概念について理解を深める。効果的なヘルスプロモーション・アプローチの計画・実践・評価のスキル。地域でのヘルスプロモーション実践における住民参加を含む協働的取り組み。精神保健に関わる健康問題へのヘルスプロモーション概念の応用。ヘルスプロモーション実践と支援的ネットワークのあり方。
ソーシャルネットワーク論 <オムニバス> 担当教員名 佐藤 林正・後藤 秀昭	精神障害を持つ人々、あるいは、認知症高齢者や孤独な一人暮らし高齢者等を支援するフォーマルかつインフォーマルなソーシャルネットワークの現状およびあり方について教授する。さらに、認知症やひきこもり、薬物に関する問題をもつ人々、孤立化している人々への支援の検討を通じて、ソーシャルネットワークの形成と発展、各種プログラムの関与等について考えていく。

児童精神保健論 担当教員名 益満 孝一	不登校、いじめ、引きこもり、さらには少年非行など児童精神保健の発達上の問題について教授する。特に児童の重要な生活環境である家庭や学校における児童の抱える問題への介入とその問題解決について、家族療法などを検討する。さらに、家庭や学校における児童の問題は多様化しており、児童のアサーション能力や社会生活技術の向上といったエンパワーメントによる問題解決についても検討する。
家族精神保健論 担当教員名 熱田 一信	精神保健に直接的、相互的な影響関係、相互作用関係にある家族のライフサイクル及びライフ・ステージ上の変化や移行、あるいは安定と成熟に関して精神保健学的立場から教授する。また、人生過程での家族ライフイベントの問題と課題に関しても言及したい。特に、第一次集団としての家族の生態学的課題、コホー特的な家族問題や課題についても考えたい。
教育精神保健論 担当教員名 山本 孝司	今日の子どもに関する問題（適応障害や学業不振、神経症、不登校やいじめ、暴力など）および子どもを取り巻く問題（貧困、教育格差など）について履修者とともに検討していく。そのなかで教育に内在する予防的機能と治癒的機能を検討し、学校教育と関わる子どもの精神保健課題への対応や支援のあり方の本質を考察する。
高齢者精神保健論 担当教員名 後藤 秀昭	老年期は心身機能の低下、退職による社会的地位や収入の減少、配偶者や親しい友人などとの離・死別等、複合喪失のステージにある。これら高齢者のライフイベントやそのステージに応じた精神保健問題の予防、家庭・地域における精神的健康づくりについて教授する。さらに老年期うつ病や認知症を中心に、高齢者自身へのメンタルケアはもとより、介護家族への支援、地域ケアや地域計画、予防や健康の保持増進などの社会的支援方法について教授する。
精神保健介護論 担当教員名 (未定)	わが国における介護問題は、認知症高齢者や精神障害者・知的障害者等の増加にともなって介護ニーズと援助関係や援助方法が精神保健の課題を多く含んでいる。介護保険制度によって介護保障が社会的に行われる中で課題となっている認知症高齢者、精神障害者、知的障害者等における介護実態、介護原則、介護関係、介護にかかわる制度とサービス及び課題、介護場面における権利擁護、事例研究法、について教授する。
精神保健管理論 担当教員名 熱田 一信	『精神保健管理』という用語は『精神障害者の管理』につながるステレオタイプな概念と結びつきやすい意味の言葉である。そこで、本講義では精神保健での『管理』とは何か？何が管理の対象なのか？管理と支援・援助とはどのような結びつきが必要なのか？という視点から現代における『精神保健管理』の概念とその力動性やアクションについて教授し、また受講生とともに考えてみたい。
精神保健アセスメント論 担当教員名 永田 俊明	アセスメントは患者・クライアントの可能性を探るために行われる。その可能性を探るためにはどのようにアセスメントにおいて能動的機能と受動的機能を相補的にかみ合わせるかが重要となる。本講義では、アセスメントの領域・場面及びさまざまな心理療法などを導入する時のアセスメントについて検討していく。
コンサルテーション リエゾン精神医学 担当教員名 (未定)	こころとからだの相関を理解する。 現代のストレス社会での適応とサポートについて、精神医学の専門的視点から講義する。
心身医学論 担当教員名 山田 健二	こころとからだの相関を理解する。 現代というストレス社会への適応とサポートを統合医療の視点を交え考察する。
精神保健看護論 担当教員名 阿蘇品 スミ子	高齢社会、核家族と世の中は目まぐるしく変化している今日、家族の一員に慢性疾患をもちながら仕事や日常生活をしている人々が多い。こうしたことから、患者もその家族も、心の働きのバランスを失いさまざまな不健康状態が出現している。しかし心の健康についての取り組みは不十分である。看護を基盤として、慢性疾患（がん患者・ターミナル患者とその家族も含む）をもつ患者とその家族の精神保健の課題についての対応や支援のあり方について教授する。
障害児発達援助論 担当教員名 李 玄玉	知的障害、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症、コミュニケーション障害などの、発達障害への理解を深めると共に、発達障害児への援助について教授する。特に、障害をマイナスの状態やネガティブ状態として捉えず、障害という状態からスタートという観点を中心に、障害のある個人を対象とした援助から、家庭や学校・地域を含む包括的な援助、社会的参加の援助、生涯にわたる援助などについて教授する。

<p>行動障害援助論</p> <p>担当教員名 李 玄玉</p>	<p>近年、精神遅滞、自閉性障害、注意欠陥多動性障害（ADHD）などをもつ障害児(者)が示す行動障害に対して、どのように対応すればよいか、医療・福祉・教育の領域において、さまざまな行動障害に対する適切な援助が求められている。本講義では、行動障害の成因、行動の特徴などの基礎理論について学びを深める。さらに、応用行動分析学やTEACCHプログラムの考え方の導入と活用など、理論的・実践的進歩及び、最新の研究成果を取り入れながら、教育や福祉の実践現場において行動障害への具体的な援助方法について教授する。</p>
<p>家族発達援助論</p> <p>担当教員名 永田 俊明</p>	<p>人間にとって福祉追求の第一次集団と期待されている家族が時には反福祉的環境になることもある。児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、中高年の自殺等の事例がこのことを実証している。本講義では、家族の発達課題の認識とその遂行への援助について、様々な事例の分析を通して生活・健康の維持、予防的援助、困難時の援助的介入のあり方、および家族援助の手法について教授する。</p>
<p>生活環境支援論</p> <p>担当教員名 西島 衛治</p>	<p>これまでの環境整備としての障害者のバリアフリーは、車いす使用者など身体障害者が中心になっていた。しかし、脳機能障害などの精神活動面でのバリアフリーは、これまで一般化されていない。そこで身体障害者のバリアフリーとの違いを明示しながら、精神障害者のほか認知症高齢者、発達障害者(児)が地域で社会生活が継続できるための生活のほか、環境支援の方針などを地域福祉学的アプローチに基づいて教授する。精神障害者、認知症高齢者、発達障害者(児)には、認知の障害が見られることがあり、パニックになることがある。例えば、構造化を導入することにより生活環境を理解しやすくし、安定した生活を提供できる情報を提示し、地域社会での生活を支援する方法論を教授する。</p>
<p>精神保健住環境論</p> <p>担当教員名 西島 衛治</p>	<p>精神障害者のほか認知症高齢者、発達障害者(児)が地域で社会生活が継続できるためのグループホームを含めた住環境整備の方針をノーマライゼーションの理念に基づき、環境心理学的アプローチの視点を重視して講義する。精神障害者の統合失調症などには、幻聴や幻視などの不安要因が見られるが、どのように住環境を整備すると安定的な生活が可能かを追求する。また、認知症高齢者のうちアルツハイマー病は、脳血管障害より認知障害が顕著に進行するが、認知障害に対応した構造化を用いた住環境整備の方針を教授する。また、発達障害には、自閉性障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などがあり、何れも認知の障害が見られる事がある。対応として構造化の手法によりグループホームを含めた住環境を理解しやすくし、安定した生活ができる情報についても教授する。</p>

### 精神保健学専攻【専門科目】 発達精神保健学分野

<p>発達精神保健学特論 (臨床・予防領域)</p> <p>担当教員名 熱田 一信・永田 俊明 山本 務</p>	<p>本特論は人間の精神保健上の発達過程を軸にした生活行動の現代的問題や課題、及び人が遭遇するライフイベントとその精神保健学上の問題や課題について教授する。特に、精神発達各期における現代的テーマとの関連で教授する。</p>
<p>発達精神保健学演習 (臨床・予防領域)</p> <p>担当教員名 熱田 一信・永田 俊明 山本 務</p>	<p>人間行動の発達とその発達援助に関してそのマイクロシステム及び、メゾシステム上の精神保健学的主題に関して演習する。特に、個と個への発達介入及び発達援助における認知的及び体験的距離概念を軸に演習する。なお本演習では精神保健学関連の研究論文、文献抄読を通して実施する。</p>
<p>発達精神保健学研究 (臨床・予防領域)</p> <p>担当教員名 熱田 一信・永田 俊明</p>	<p>発達精神保健学の研究における研究法の一般性と特異性、効用と限界を軸に院生の研究課題を同定し、修士論文作成を指導する。特に従来の精神保健先行研究への意味及び意義、効用と限界の判読に基づく院生研究指導を行う。</p>
<p>発達精神保健学特論 (行動・障害領域)</p> <p>担当教員名 益満 孝一・李 玄玉</p>	<p>少子化や地域の子育て力の減少などにより、児童の日常生活での対人関係能力の脆弱性が指摘されている。児童の精神保健に関する問題に対する解決能力を促進するアプローチとしてグループワークによる体験学習が有効であり、本特論では精神保健のグループワークのリーダー育成について体験的学習を含め教授する。また、構成的グループエンカウンター、グループワークなどについての習得もめざす。</p>
<p>発達精神保健学演習 (行動・障害領域)</p> <p>担当教員名 益満 孝一・李 玄玉</p>	<p>本演習では、児童の発達上の精神保健問題について、児童とその家庭に協働(コラボレーション)できる精神保健援助技術の習得を目的とする。児童とその家庭への支援について、解決志向アプローチなどをもとに対人援助職としての介入、関わり方について検討する。また、ロールプレイ、逐語記録、アサーションなどの精神保健援助技術についても体験学習し、専門職としての質的向上を図る。</p>

発達精神保健学研究 (行動・障害領域)  担当教員名 益満 孝一	院生各自の研究テーマについて、文献・資料の収集を行い、研究方法など論文作成について助言・指導を行う。研究対象は、児童の発達上の精神保健問題を核としながらも、その家族の発達上の精神保健問題としても取り上げる。また、臨床的視座として、個人だけでなく、家族や集団という人間の相互関係への関わりについての精神保健的視座の研究も深めたい。
--	--

## 精神保健学専攻【専門科目】 社会精神保健学分野

社会精神保健学特論 (地域・健康増進領域)  担当教員名 佐藤 林正・後藤 秀昭	高齢社会が進展しつつある中で、家族機能の弱体化、コミュニティの解体や連帯感の喪失、経済の低迷などを背景に自殺や虐待、DV、ホームレス、精神障害、認知症など精神保健福祉に関わる社会病理的事象が社会問題化している。本特論では、このような社会病理的事象を対象として、その問題発生の社会的文化的要因の解明や理解について教授する。また、このような問題に対する解決や社会的取り組みについて具体的にとりあげ、行政や民間による地域ケアや地域計画、予防や健康の保持・増進、介護を含めた社会的支援等について教授する。
社会精神保健学特論 (地域・健康増進領域)  担当教員名 西島 衛治	精神障害者の統合失調症などに幻聴や幻視などが見られ、地域での社会生活を困難にしている。どのように地域での社会生活における環境整備を行うと安定的社会生活が可能になるかについて教授する。認知症高齢者のうちアルツハイマー病の場合、認知障害が顕著に進行するが、認知障害に対応した構造化を用いた地域社会の生活環境整備の計画方針を物理的側面とシステムのソフト的側面から論じる。また、発達障害者の自閉性障害などには認知の障害が見られ社会的不適応になることがある。例えば高機能自閉症やアスペルガー症候群の障害者の保健面に構造化を導入することにより社会生活の環境を理解しやすくし、安定した地域社会生活ができる情報を提供し、地域社会での生活を支援する保健学・社会福祉の方法を論じる。
社会精神保健学演習 (地域・健康増進領域)  担当教員名 佐藤 林正・後藤 秀昭	自殺、虐待、DV、ホームレス、認知症、統合失調症、抑うつ症、介護等多様な社会病理的現象に関連する内外の研究論文を抄読し、問題発生の要因や社会的受け止め方、対策や予防、社会的システムや専門職の対応等について検討する。また、必要に応じて施設や問題を抱えている当事者にアプローチし、現場の実状についても体験し、集団討議を行う。
社会精神保健学演習 (地域・健康増進領域)  担当教員名 西島 衛治	障害者のバリアフリーは、身体障害者が中心になっていた。しかし、脳機能障害などの精神活動面におけるバリアフリーは、これまで一般化されていない。そこで身体障害者のバリアフリーとの違いを明示しながら、精神障害者のほか認知症高齢者、発達障害者(児)などが地域で社会生活が継続できるための生活環境支援の建築・都市計画学と環境心理学的手法をノーマライゼーションの理念に基づいて演習を行う。そのひとつとして基礎的な設計演習(CAD)なども導入する。認知症高齢者の認知障害(見当識障害)に対応した構造化を用いた生活環境整備の方針を物理的側面とシステムのソフト的側面から求める。また、発達障害には、認知障害のため問題行動が多発することがある。そこで「構造化」を導入する事により社会生活環境を理解しやすくするための生活情報を提供し、地域社会での生活を支援する様々な具体的手法の習得をめざす。
社会精神保健学研究 (地域・健康増進領域)  担当教員名 佐藤 林正	社会病理的事象について具体的に研究対象を絞り、その発生の機序から、経緯、対応、回復、対策、予防等に関し、当該院生が文献研究やフィールドワーク研究を通じて、論文作成ができるように指導をする。また、本研究を通じて、対象へのアプローチ、質的研究や量的研究の進め方など研究一般の方法や手法を獲得できるよう、研究方法についても教授指導する。
社会精神保健学研究 (地域・健康増進領域)  担当教員名 西島 衛治	脳機能障害者のためのバリアフリー研究は、あまり一般化されていない。精神障害者のほか認知症高齢者、発達障害者(児)が地域で社会生活が継続できるための生活環境への支援方針を追究する。住環境を含め地域社会での生活を支援する環境整備方法を地域の実態調査のデータを基に分析し研究する。最近、引きこもり、虐待、学校教育でのいじめ、職場の人間関係における不適応が社会問題化している。最近の調査結果では、通常学級の児童のうち、LD、ADHD、高機能自閉症などの軽度発達障害児の割合が6.3%の在籍であることが明らかにされている。そのための「特別支援教育」を踏まえた学校環境の整備を含め、精神保健学的視点からの地域社会全般の環境整備計画の研究を行う。なお、2005年に「発達障害者支援法」が制定され、今後の本研究分野の研究による地域社会への貢献の役割は大きい。
社会精神保健学特論 (生態・システム領域)  担当教員名 徳永 淳也	産業保健における職業性ストレス研究は、被雇用者の精神的健康度の維持向上ならびに組織、雇用者にとっては質の高い製品、サービスの生産の達成という視点等から重要な研究テーマであり、医療保健福祉領域に採用可能な知見も多数みられる。本講義では、組織における被雇用者のメンタルヘルスを考える基本的な視点を国内外の先行研究を適宜紹介しながら概念整理を行い、本領域における研究の基盤となる基礎理論の習得をはかる。

<p>社会精神保健学演習 (生態・システム領域)</p> <p>担当教員名 徳永 淳也</p>	<p>医療・保健・福祉領域における対人援助サービス従事者が、職務上さらされるストレスの特徴、バーンアウト関連要因、個人的・組織的なストレスコーピング策等について国内外の厳選された文献を精読することを基本として演習する。また、院生の持つ問題意識に焦点を絞った論文を批判的に評価しながら教員・院生間のディスカッションを通して、問題意識を研究仮説へと発展させる。論文の研究手法等についても詳解し、院生自身の調査研究実施のために確実に基礎力を身につけることを目的に実践的演習を行う。</p>
<p>社会精神保健学研究 (生態・システム領域)</p> <p>担当教員名 徳永 淳也</p>	<p>特論、演習で身につけた理論・知識を基に、院生自身の問題意識を具体的な研究仮説へと育てながら修士論文を作成する。研究テーマは、院生固有の問題意識に基づき講義演習を通じて得た理論・知識を背景とした研究課題について研究指導を行う予定である。その後、社会調査法や疫学的アプローチにも配慮した研究デザイン作成指導を行い、調査により得られたデータ解析指導を実施しながら修士論文作成指導を行う。</p>